

プレスリリース

報道関係者各位

2026年3月26日
 高松自動車学校
株式会社T・D・S

自転車「青切符」制度開始に合わせ、警察と自動車学校が 高松市内の高校生を対象に「体験型交通安全教育」を実施

高松自動車学校（株式会社T・D・S 高松市上天神町646番地／代表取締役：樽本勇紀）は、高松北警察署・高松南警察署と連携し、今年4月から導入される自転車の「青切符」制度※に合わせ、高松市内（以下、市内）の高校生を対象とした「体験型交通安全教育」を実施します。市内10校を対象に4月13日より順次開催し、初回は4月13日13時～15時、大手前高松高等学校で行います。自転車を使用した走行体験と警察による制度の解説を組み合わせることで、交通ルールと青切符制度への理解を深め、事故防止につなげることを目的としています。

※自転車の「青切符（交通反則通告制度）」は、16歳以上の自転車利用者による一定の交通違反に対し、反則金の納付によって手続を簡略化する仕組みです。これまで自転車の違反は、主に指導警告または刑事手続の対象となっていました。4月1日から制度が導入されることで、悪質・危険な違反に対して、より実効性のある対応が行われるようになります。

■ 自転車事故の現状と対策

現在、全国の交通事故件数は減少傾向にあるものの、自転車に関連する事故は年間約7万件前後で横ばいの状況が続いています。その結果、全交通事故に占める自転車事故の割合は増加傾向にあります。

特に深刻なのは、自転車乗用中の死亡・重傷事故のうち、約4分の3で自転車側にも信号無視や一時不停止などの法令違反が認められている点です。

また、年齢層別の負傷者数を見ると、15歳から19歳（主に高校生世代）が最も多くなっています。通学などで自転車を利用する機会が多いことから、事故リスクの高い年代とされています。

こうした状況を受け、警察庁などは、自転車が自動車と同様の「車両」であることから、交通ルールの遵守を促す取締りの強化を進めています。あわせて、幼児から高齢者まで各ライフステージに応じた交通安全教育の充実を推進しており、段階的な交通安全教育を進めることで、誰もが安全・安心に自転車を利用できる社会の実現を目指しています。

■ 青切符制度の概要と背景

「道路交通法の一部を改正する法律」により、今年4月1日から、16歳以上の自転車利用者による一定の交通違反に対し、「青切符（交通反則告知書）」が交付される制度が導入されます。

これまで自転車の交通違反は、いわゆる「赤切符」による刑事手続の対象とされており、有罪となった場合は罰金の納付に加え、前科が付く可能性がありました。

しかし、刑事手続は時間や手続きの負担が大きく、実際には不起訴となるケースも多いことから、十分な責任追及が難しいとの指摘がありました。

新たに導入される青切符制度では、信号無視や指定場所一時不停止などの交通違反をした場合、反則金を納付することで刑事手続には移行せず、前科も付きません。これにより、違反への対応を簡易かつ迅速に行うことが可能となり、自転車利用者の交通ルール遵守の促進が期待されています。

※自転車を安全・安心に利用するために－自転車への交通反則通告制度（青切符）の導入－（自転車ルールブック）より

■ 講習内容

本講習は、市内の高校10校を対象に、各校の体育館などで約1時間のプログラムで実施します。本取り組みは、当校が高松北警察署・高松南警察署と連携して企画したプログラムであり、自動車学校による体験型の安全教育（約30分）と、警察による制度解説（約20分）を組み合わせた構成としています。

体験講習では、自転車を使用し、「ながらスマートフォン運転」や「並進走行」、「右側通行」といった交通違反や危険行為が、どのような事故につながる可能性があるのかを学びます。

続いて、警察から今年4月に導入される自転車の「青切符」制度について解説を行い、対象となる違反行為や制度の仕組みを説明します。体験と制度理解を組み合わせることで、高校生が交通ルール的重要性を自分ごととして捉え、安全な自転車の利用につなげることを目指します。

■ 効果と展望

現在、自転車の交通安全教育は座学形式で行われる場合もありますが、当校では、交通ルールを、より理解してもらうには体験を通じた学びも重要であると考えています。今回の取り組みでは、実際に自転車を使用し、体験をしてもらうことで、危険行為や違反行為がどのような事故につながるのかを理解してもらい、交通ルールへの意識向上につなげることを目指します。

また、本講習は市内の高校10校の生徒を対象に実施する予定ですが、限られた時間と人数の中では、交通安全に関する理解を十分に深めるには一定の限界もあります。そのため今後は、各校の交通委員や生徒会などとも連携し、交通安全について主体的に学ぶ機会を広げていくことを検討しています。高校生自身が交通安全の重要性を理解し、同世代へ伝えていくことで、学校内で交通安全意識が広がっていく仕組みづくりを目指します。